

特別講演 1

「CKD の進展抑制における貧血治療の意義」

福井大学医学部 腎臓病態内科学教授

岩野 正之 先生

慢性腎臓病(CKD)の概念が提唱されて、今年で丁度 10 年になる。本邦での患者数は約 1300 万人以上と推測され、今や CKD は新国民病といえる。高血圧、貧血および蛋白尿などが、CKD の悪化因子であることが明らかとされており、すべての悪化因子を適切に加療することが CKD の進展抑制に重要である。

腎性貧血の主因は、エリスロポエチン(erythropoietin;EPO)の産生・分泌不足であることから、その治療には赤血球造血刺激因子製剤 (erythropoiesis stimulating agent:ESA)の補充療法が必須である。CKD の進展抑制を目的とした腎性貧血の治療には、1)いつから治療を開始すべきか、2)どの ESA で治療したら良いのか、3)どの程度貧血を改善したら良いのか、4)鉄補充はどのようにすれば良いのか、など考慮すべきポイントが多く複雑である。そこで本講演では、腎性貧血の治療アプローチをわかりやすく解説したい。